

第4回学校運営協議会報告

～学校関係者評価についての総括～

今回の運営協議会の概要について

各学部の授業参観をおこなった後、今年度の学校評価（教職員、保護者、生徒）の集計結果を運営委員のメンバーに報告した。その中からでてきた課題と成果を共有し、次年度に取り組むべき内容等について協議をおこなった。学校長からは今年度の地域連携の取り組みや教職員の研修（授業研修、人権研修等）の紹介、育友会の防災の取り組みなどについての説明をおこない、次年度に向けた説明等をおこなった。



授業見学の様子



授業見学の様子



■各委員から今年度学校運営協議会を終えての感想

①垣内委員（本校育友会長）

地域の意見が聞けたこと、今まで表面的な所しか見えていなかった学校の取り組みを知ることができたことは良かった。やはりコミュニケーションが大切。先生方のアンケートにもあったが連携や信頼関係を構築することが大事ではないか。学校と保護者が連携しながら信頼関係を深められるようにしていこうと育友会でも話しあいました。

②湊川委員（新宮市教育委員）

音楽の授業で生徒が楽しそうに楽器の演奏をおこなっていたのが印象的であった。地域との連携も学校が取り組んでいるのがわかったし、こういった取り組みをおこなっていることもさらに発信していけばいいのではないかな。また、何でも話し合える関係性が大事だと思います。

③湊委員（株式会社心楽 代表取締役）

支援学校の児童生徒が一般校と違って増えてきている現状等も踏まえて、今後、進路も含めて働く場の確保をおこなっていくことが大切。他の就職先等を視察したりして情報を得るのもいいかもしれない。一人でも多くの子がしっかりと稼げるようになってほしい。

④中村委員（ハローワーク新宮）

早い段階から子どもたちの進路決定に向けてハローワークに来て求人を検索したりする経験を踏んでもいいのでは。よく、卒業後に障害者求人をさがしにくる卒業生もいるので、在学中に経験するといいと思います。また、一般高校のようにハローワークと連携して、求人募集を自由に見れるようにしてはどうか。



他の支援学校ではそのような取り組みを確かおこなっていた。また、職業訓練校などを経由して就職につながった卒業生もいるので人口が減少している新宮市の現状を考えると様々な方向性を検討する必要がある。

⑤畑尻委員（蜂伏地区長）

子どもたちも学校を楽しんでいるように感じるし、地域との連携や学習内容表の作成も学校はおこなっている。今後は個に応じた指導をおこないながら、最終的な指導の目標をしっかりと考えていけばいいと思います。また、学校の熱心な取り組みをもっと保護者にも知ってもらえればコミュニケーションもとりやすくなるのではないかと思います。

⑥橋上委員（美熊野福社会法人本部事務局長）

忘れてはいけないのは、主体は子どもであることだと思います。また、水面下で先生方がご苦労されているのがよくわかりました。今回の運営協議会としてのキーワードは「コミュニケーション」「連携」「信頼」が考えられます。みくまの支援学校はオープンな学校なので、今後はクリーンな学校に向けて取り組んでくれたらと思います。

⑦校長

今回も運営協議の方からいただいた意見は本当に貴重なものでありました。児童生徒数の増加とともに進路先の拡大や教職員の高等部卒業後に向けた支援、学部間の系統性等について意識を高めていくことが大切だと思っています。各学部の取り組みの充実と地域や保護者との連携を大切にして次年度も取り組んでいきます。



「コミュニケーション」「連携」「信頼」
「オープンな学校」「クリーンな学校」